ラスターパネル・ラスターボード
ラスターバーモジュール

<取扱説明書>

Ⅰ．使用上の注意

■ 弊社 LED 製品の定格電圧は **DC12V** です。
AC100V や **AC200V** などの商用交流電源には絶対に直接接続しないで下さい。
誤って接続された場合は保証の対象外とさせていただきます。
電源との接続の際には十分ご注意の上、接続を行って下さい。
※本製品は DC１２V 駆動です。専用電源ユニットに必ず接続してご使用下さい。
※本製品に一次側電源〔AC100V、200V〕を直接接続しますと故障の原因となります。

■ 本体の修理、改造、分解をしないでください。故障や火災の原因になります。
また、本製品を浸水させるような状況でのご使用はお避けください。

■ 本製品には、一次側電源（商用交流電源）から二次側電源(専用電源ユニット（別売）)までの電線、専用電源ユニット（別売）から本体までの電線は含まれておりません。
ご用意いただく電線は、許容電流値をご確認の上、接続をしてください。
電線は、電圧降下を考慮し線径が太いものを使用する事をお勧め致します。
※専用電源ユニットからモジュールまでの距離は 10m以内にする事をお勧め致します。
※一次側電源から電源ユニット（別売）までの配線工事は工事資格者が行って下さい。

■ 本製品はモジュール間の配線を自由に切断しご使用出来ますが、切断した箇所や結線した箇所にはシリコン樹脂、ビニールテープなどで必ず、絶縁及び防水処理を行って下さい。

■ 規定の接続をされた場合にも関わらず、本製品が点灯しない場合、又は焦げ臭い匂いがする場合は、電源を切り販売元までご連絡下さい。

■ 本製品に、過度な重量、衝撃、圧力等を加えないで下さい。

■ 本製品をアセトン、ベンジン、シンナー等、揮発性の高い溶剤で拭かないで下さい。
(アクリル、輝度、防水性能等への劣化原因となる場合があります。)

■ 本製品を専用電源ユニット（別売）に接続される場合、許容容量を超えた使用をしますと動作不良、専用電源ユニット（別売）の故障、または火災等の危険性がありますので十分ご注意下さい。

■ 本製品の接着には必ずアルコール含有のシリコン樹脂をご使用下さい。

Ⅱ　品質保証規定

保証期間内に於いて、お客様の正常な使用状態のもとで万一故障した場合、本規定に従い修理あるいは新しい製品と交換させていただきます。但し、保証期間内においても、次の場合には保証の対象となりません。

■　使用上の誤り、他の機器から受けた障害、または不当な修理や改造、一度でも本製品を分解された場合。

■　納品後の輸送や運搬途中、移動、落下、衝撃、また取付施工中の事故や、お客様の取り扱いの不注意のために発生した故障、損傷の場合。

■　火災、地震、風水害、落雷その他の天変地異、あるいは公害、塩害、異常電圧によりもたらされた故障や損傷の場合。

■　取扱説明書や配線説明書に記載のない使用方法、また注意・警告に反する取扱いをした場合。

■　弊社の保証範囲は、商品の交換、修理のみとさせていただきます。取替えによって二次的に発生する取付工事費用、現場足場費用、運搬費用、店舗休業補償、利益損失等の補償はいかなる場合でもいたしかねますので、予めご了承ください。

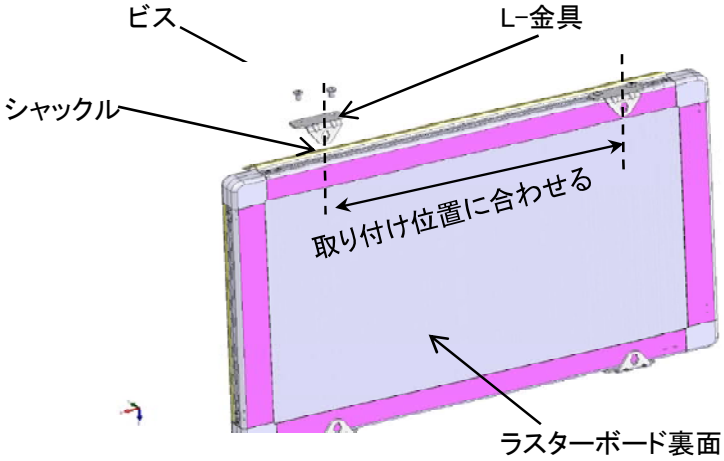
■　保証を受けられる場合は、納品書の控え、施工図面、電気図面、瑕疵の状況を示す写真等の資料をご提出願います。状況によっては、瑕疵のある製品との交換を条件とさせていただく場合がありますので、予めご了承ください。

■　規定電圧（DC12V）以上の電圧を印加された場合

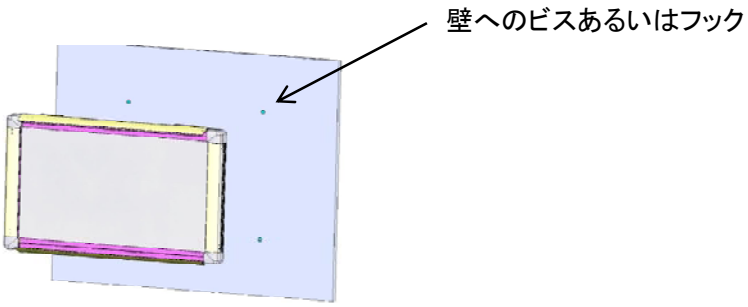
※不慮の事故が発生した場合は別途調査の上、原因究明後ご相談させて頂きます。

ラスターボード設置手順　その1

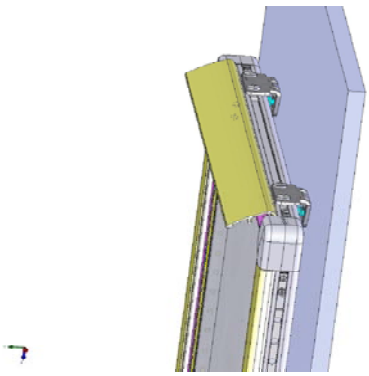
1. ラスターボードの溝部にあるシャックル（拘束金具）を適正な位置（＝壁への取り付け位置）に移動し、
L金具とシャックルのビス留め穴の位置を合わせ、ビス留めして下さい。
A1あるいはA2サイズのラスターボードには上下2カ所ずつ、合計4カ所にL金具を取り付けて下さい。



2. 取り付ける壁側にビスあるいはフックを取り付けて下さい。
A2以上のサイズではラスターボードの重量に十分注意し、ビスやフックの選定を行って下さい。



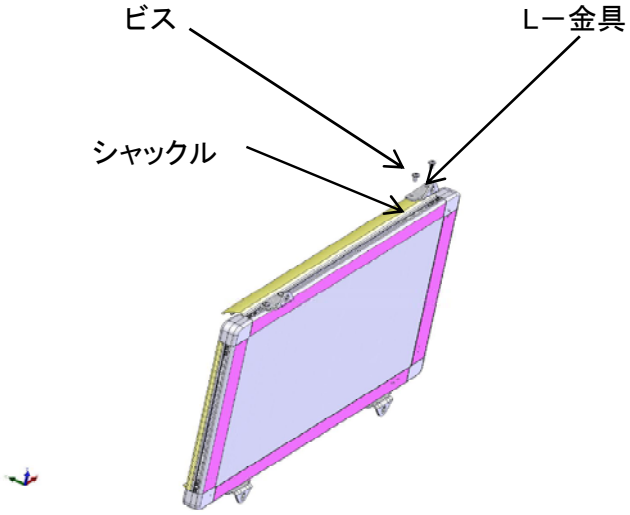
3. ビスあるいはフックをL金具の穴に引っかけるように取り付けます。
全てのビスあるいはフックがL−金具の穴に挿入された事を確認して下さい。



4. 取り付け後の外観

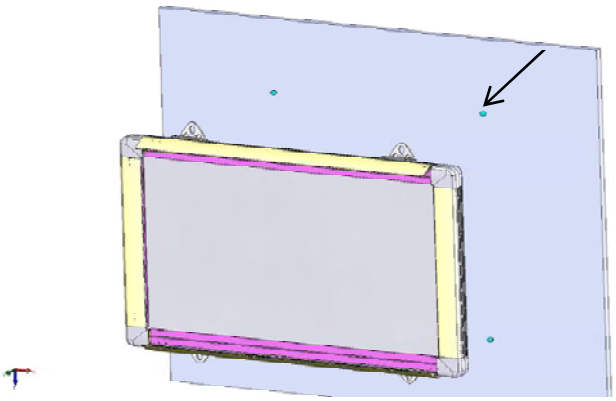
ラスターボード設置手順　その2

1. 手順その1と同様の方法で、L字金具を ラスターボードの上部2カ所、底部2カ所にビス留めして下さい。



2. 取り付ける壁側にビスあるいはフックを取り付けて下さい。
ラスターボードを壁に仮固定し、その後壁にビス留めやフックを取り付ける事も有効です。
A2以上のサイズではラスターボードの重量に十分注意し、ビスやフックの選定を行って下さい。

壁へのビス取り付け



3. 取り付け後の外観